



# 通信

HP 学校だより  
R4. 10. 11  
NO. 23  
文責 伊藤美佳

## 百聞は一見に如かず「本物のすすめ」

4日（火）に行われた創立150周年記念第39回豊坂小学校すもう大会では、多くの保護者の皆様にご参観いただきありがとうございました。子どもたちが真剣に相手にぶつかっていく姿、応援する熱い眼差しと大きな声や拍手など、子どもたちのすばらしい一面をご覧いただけたのではないかとうれしく思います。来年度は地域の皆様にも子どもたちの勇姿をご覧いただきたいです。

150周年記念大会では、ゲストとして女子相撲国際大会優勝の柴田歩乃佳さん（詳細は「広報こうた10月号」）にご来校いただきました。子どもたちの前で「四股」を見せていただきました。一方の足を高くきれいに上げ、もう一方の足で体を支え、微動だにしないその姿は、会場にいる全ての人を釘付けにしました。子どもたちはもとより、保護者の方々からも感嘆の声や「バランスがすごい」といった声も聞けるくらい美しいものでした。その後すぐにその四股をまねする子どももいました。

「百聞は一見に如かず」のとおり、この一見が子どもたちの闘志に火をつけたと感じました。「本物」を見る、聞く、実際にやってみる……。教育活動の中で大切にしていることですが、改めてその重要性和効果を実感させられました。ぜひ、ご家庭でもお試しく下さい。子どもたちの伸びしろは無限大です。



## 豊坂笑楽校 「T2お笑いGP」

すもう大会の翌日から、6年生による「T-2お笑いグランプリ」が開催されました。ちなみに、T2の「T」は豊坂の頭文字をとったそうです。

昨年度の1月に「T-1お笑いグランプリ」が開催されてから半年ぶりです。6年生がお笑いをするには、2つの意味があります。1つは、ネタを作ることで言語活動、人前で演じることで表現活動を充実させることができます。もう1つは、自分たちのネタを見て、笑ってもらえ、楽しんでもらうことで、達成感や成就感を味わうことができ、更には自己肯定感が高まることも期待できます。

さて、今回のお笑いはどうだったのでしょうか。リハーサルの時点ではまだまだ笑いをとるまでには至りませんでした。しかし、本番ではマイクをうまく使ったり、大げさにリアクションしたりと成長が見られ、会場は笑いの渦に巻き込まれました。1年生は初めてのことで、とても楽しみにしていました。見終わって帰るときに、「ぼくのお兄ちゃんが出てたよ。」「班長さんがやってた。」「おもしろかった。」と口々に感想を言ってくれました。6年生の姿は、見ていた子どもたちの「あこがれ」となり、「あこがれ」の姿を追い求めるために行動し始めることなのでしょう。楽しみです。

今回、全員が舞台上に立ったわけではありません。役割分担をして、自分たちで運営も行ったようです。演じることも大切ですが、自分たちで企画、運営することはもっと大きな学びとなったことなのでしょう。

## 創立150周年記念式典に向けて

幸田町内に今年度150周年を向かえる学校は3校あります。坂崎小学校、深溝小学校、そして豊坂小学校です。先陣を切って、明日10月12日（水）に豊坂小学校創立150周年式典を行います。

式典の中で、「豊坂小学校150年のあゆみ」を紹介します。あゆみのプレゼンテーションを作るにあたって、6年生に声をかけたところ、4名が手を挙げ、教頭先生とともに原稿づくりからプレゼンテーションまで行いました。当日も、4名がせりふと機械操作を行い、4～6年生がその中で校歌を歌います。体育館で3学年が歌う校歌もコロナ禍以降初めてのことで、150年の重みを感じつつ、新たなスタートとなることを期待します。